

荒尾市民病院第二期中期経営計画の

平成 28 年度実施状況に関する点検・評価報告書の概要

【点検・評価の目的】

荒尾市民病院においては、総務省の『(前)公立病院改革ガイドライン』に基づき、本院が今後も地域において必要な医療を安定的かつ継続的に提供していくための抜本的な改革プランとして、平成 20 年 12 月に「荒尾市民病院中期経営計画(H21～25 年度)」を策定し、外部有識者、医療関係者、市民などで構成する「荒尾市民病院あり方検討会」における、様々な観点からの、そのあり方についての議論を踏まえ、これまで改革の取組が展開されてきたものである。

総務省においては、今後も公立病院における改革を継続しつつ、地域医療構想との整合を図る目的で、平成 27 年 3 月に新たに「新公立病院改革ガイドライン」が策定され、本院においても、ガイドラインを踏まえた平成 28 年度から平成 32 年度までを計画期間とする「荒尾市民病院第二期中期経営計画」が平成 29 年 3 月に策定されたものである。

『新公立病院改革ガイドライン』においても、『(前)公立病院改革ガイドライン』と同様に、「荒尾市民病院第二期中期経営計画」の実施状況を概ね年 1 回以上点検・評価・公表するよう求めており、検討会において、ガイドラインで示されたポイントである、これまでの「経営効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態見直し」に、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」を加えた 4 つの視点から、平成 28 年度の実施状況について、目標に対する取組状況や概要等について説明を聴取して、その進捗を図るとともに、目標が達成されなかった場合の原因や妥当性を検証し、意見が述べられたものである。

【報告書の主なポイント】

①地域医療構想を踏まえた役割の明確化

- 災害拠点病院及び地域救命救急センターの指定を目指すことについては、第 7 次有明地域保健医療計画にも記載されているところであり、今後、新病院の開院へ向け、医師・看護師等の確保や累積欠損金の解消など、指定に向けた取組みをさらに充実させる必要がある。
- 地域包括ケアシステムの構築に向けた本院の果たすべき役割については、医師会や薬剤師会、看護協会等各種関連団体と協力・推進が図られており、「地域医療支援病院」として、有明医療圏における地域完結型医療体制の確立に向けた取組が進められている。
- 一般会計との負担区分については、一般会計と病院事業会計間での新たな繰出基準を定め、毎年の変動に合わせて調整ができる形でのルールの再設定により、本院が地域医療の確保といった役割を果たすことに資するものである。

②経営効率化

- 循環器内科及び救急科医師の増員等により、増収増益となり、4 億 1 千 1 百万円の純利益が発生し、累積赤字は 12 億 6 千 3 百万円に改善。
- KPI(重要業績評価指標)においては、病床利用率のみが達成されておらず、急性期病床の効率的な活用の観点から、平均在院日数を短縮した上で更なる病床利用率向上に引き続き努力する必要がある。

○「経営基盤の安定化」を図る上では、有明医療圏域だけではなく、もっと大きな視点で医療需要に応えるサービスを提供しなければならず、そのためにも、医師をはじめ、看護師等メディカルスタッフの確保について、熊本大学や地域の看護大学、看護学校等との関係強化・連携をより密接に行っていく必要がある。

KPI(重要業績評価指標)の達成状況

○:達成 ×:未達成

区 分	平成28年度		平成27年度	達成度
	目 標	実 績	実 績	
経常収支比率	101.7%	107.1%	103.3%	○
医業収支比率	96.6%	104.4%	100.1%	○
職員給与費対 医業収益比率	60.6%	49.6%	60.5%	○
材料費対 医業収益比率	22.2%	21.6%	20.8%	○
病床利用率	86.5%	83.0%	82.4%	×
平均在院日数	17.5 日	16.0 日	16.7 日	○

収益的収支の状況

(単位:千円)

科 目 \ 年 度	28 年 度 決 算 額	27 年 度 決 算 額	対前年度比 増減額
総 収 入	6,213,928	6,029,331	184,597
1 医 業 収 益	5,863,679	5,481,070	382,609
2 医 業 外 収 益	349,511	347,814	1,697
3 特 別 利 益	738	200,447	△ 199,709
総 支 出	5,803,382	5,642,332	161,050
1 医 業 費 用	5,617,881	5,473,155	144,726
2 医 業 外 費 用	182,294	167,891	14,403
3 特 別 損 失	3,207	1,286	1,921
差 引	410,546	386,999	23,547

当年度純利益	410,546	386,999	23,547
累積欠損金	1,263,919	1,674,465	△ 410,546
累積欠損金比率(%)	21.6	30.5	△ 8.9
不良債務額	—	5,537	—
不良債務比率(%)	—	0.10	—

③再編・ネットワーク化

- 国において、今後の医療のあり方が、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療を目指す方向性が示されている中、医療サービスの提供者間のネットワーク化は必要不可欠。
- 「新病院建設基本構想」において定めた本院の役割に基づいて、今後も近隣の中核病院や診療所、さらには、介護や住まい、生活支援サービスについても連携体制の強化を図り、互いに不足している機能を補完し、それぞれの役割を充実・強化することで、地域完結型の医療を実現していくことが求められる。

④経営形態見直し

- 平成21年4月からの地方公営企業法全部適用による経営改善に向けた取組が進められており、改善傾向が醸成され定着していると考えられるところであり、今後も累積欠損金の早期解消に努め、解消の見通しがつく頃に、人事管理や業務執行の面で、機動性・弾力性に優れた「地方独立行政法人」への経営形態の移行について改めて検討するべきと考える。

【委員名簿】 敬称略、順不同。合計8名

所属	氏名	備考
熊本大学名誉教授	小野 友道	会長
荒尾市医師会会長	藤瀬 隆司	副会長
有明保健所所長	吉田 定信	
熊本県老人福祉施設協議会会長	鴻江 圭子	
株式会社近代経営研究所専務取締役	下條 寛二	
熊本県立大学教授	森 美智代	
九州看護福祉大学准教授	開田 ひとみ	
荒尾市社会福祉協議会会長	丸山 秀人	

【検討項目と経過】

回数	開催日	検討項目
第1回	平成30年2月13日	・平成28年度決算及び平成29年度の収支状況について ・荒尾市民病院第二期中期経営計画の実施状況に関する点検・評価について